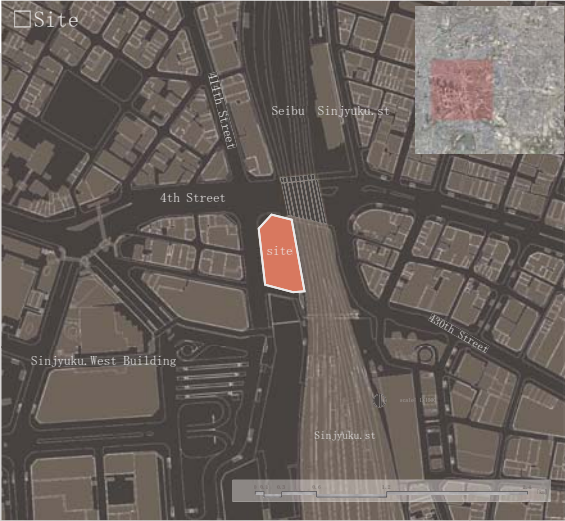


# 01. 卒業設計第 33 回学生設計優秀作品展(レモン展) 「都市集落」

芝浦工業大学大学院 工学研究科建設工学専攻 修士一年畑瀬紋子

□Site



## □Concept

都市に集落を創る。日本人は異常なまでに新しいものばかり望み、古いものは次々と排除している。時代の流れに即していない商店街を対象敷地に、地域に開けた一息つける空間を錯綜する都市に提案する。

## □Background

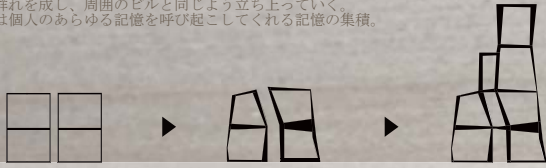
かつて様々な人が飲み屋街である店先で食を通じて人生を学び、心を通わせていた新宿西口商店街。多くの人が働きながらもそこに生きていた。

しかし今や若者は近寄らず、退職を控えた高齢者と外国人観光者のみが利用し、再開発事業計画が持ち上がるなど変わりゆく時代に取り残されてしまった。「住みながらも働く」商店街特有の風景を取り戻し、いつの間にか集まった通行人と地域とが新たに会う場を創る。

ここは『日本』。日本の風景。「風景の回帰」の場を新宿は失いそれを求めて再び都市が構成されていくのではないだろうか。「風景の回帰」と共に『日本への回帰』を果たす。

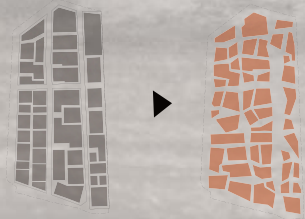
□思い出横丁と新宿  
仕事帰りにふらりと立ち寄る焼き鳥屋、斜めの床の居酒屋、肩と肩がぶつかる種狭い路地。それらが今消えてなくなろうとしている。都市の中で生き残っていくには時を越えて個(建築物)と全体(都市)が、共存していく必要がある。

水平垂直に斜めの線を加えていく。一つ一つでは崩れていきそうな建築物が積層し、寄り添うことでバランスを保ちやがて建物となる。個々は群れを成し、周囲のビルと同じよう立ち上っていく。この場合は個人のあらゆる記憶を呼び起こしてくれる記憶の集積。

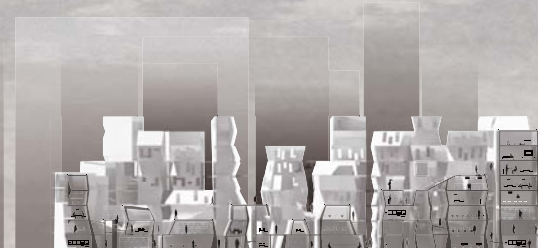


□スキマ  
スキマになんとも残った既存の街区は侵入者を拒むことはない。隙間・狭い大小の空間が人を引き寄せ、次第に風景を織りなしていく。

□飲み屋街から始まる仕事場+住居  
→たまたま仕事がしたくなる、たまに宿泊ししたくなる新たな新宿定着層歓楽街



Residence	971	11000
Common Bath Rest room	821	11750
Rental Apartment	771	11500
Bar	971	11000
Public WorkspaceCafe	491	11750
Cafe	491	11750
Public Workspace	971	11250
Workshop Galleries	0	0



# 都市に 集落をつくる

都市に捨てられた商店街・団地・隙間・時々の集まりは都市の歴史の堆積でもある。このいびつな空間は人の集まる淀みのきっかけとなり、人を通じて街へも溶け込み、都市で生きる為の集落となっていく。